

第3回

和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との 一体的整備に向けた検討会

日時：令和7年9月19日（金）

18：00～20：00

場所：和泉橋区民館 4階

次第

1. あいさつ
2. 前回検討会の振り返りについて【資料1】
3. 前回検討会以降の検討について【資料2】
4. 施設と公園の計画について【資料3】
5. 整備構想の骨子案について【資料4】
6. 今後の検討スケジュールについて【資料5】
7. その他

資料

資料1	第2回和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体整備に向けた検討会意見まとめ
資料2	第2回検討会以降の検討の概要
資料3	人工地盤校庭パターンにおける施設と公園のプランニング
資料4	和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体的整備構想（骨子案）
資料5	今後の検討スケジュール
参考資料1	第2回和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体整備に向けた検討会〔議事概要〕

第 2 回和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体的整備に向けた検討会意見まとめ

■実施概要

（１）開催概要

日時：令和 7 年 3 月 27 日（木）18:00-20:10

場所：ちよだパークサイドプラザ 7 階会議室

（２）参加者

地域関係者 ・秋葉原東部町会連合会 会長 ・地元町会（神田和泉町町会）会長 ・和泉小学校 PTA 副会長 ・いずみこども園 PTA 会長 ・青少年委員 委員 ・アイグラン保育園東神田 園長	施設関係者 ・和泉小学校 校長 ・いずみこども園 園長 隣接関係者 ・三井記念病院 事務長	千代田区 ・公園管理者 環境まちづくり部 環境まちづくり総務課長 ・教育委員会事務局 子ども部 教育担当部長 学識経験者 ・日本大学理工学部 教授
---	--	---

■主な意見

（１）施設・公園の配置形態に関する意見

①現況調査（公園の利用状況調査、風環境シミュレーション）について

[公園の利用状況調査]

- ・代替園庭として利用する際は、公園を全体的に利用している。
- ・調査は日中 16 時までしか行われていないが、夕方の 17 時頃には、こども園にお迎えに来た保護者とその子どもが公園を利用している場面が見られる。

[風環境シミュレーション]

- ・学校と公園を入れ替えることで公園の風環境が改善されるとのことだが、新施設の建物の形がシミュレーションと異なる場合でも同じことが言えるか。
- 形状に合わせ、別途シミュレーションが必要である。（区事務局）

②校庭と公園を地表面で兼用する案

- ・校庭をこども園の園庭としても利用することを考えると、平日は 17 時までは公園側に開放しないでほしい。
- ・校庭と公園の兼用部分は、日常的には校庭として使い、イベント等の際のみ開けられるようにしたかどうか。
- 兼用部分は公園の土地でもあるため、土日以外でも開放する時間を増やす検討は必要。夜間については防犯上も開放しないことになるだろう。（区事務局）
- ・道路から校庭が覗けないよう目線の高さ部分だけを隠せる仕切りで囲んではどうか。一方、公園と校庭との仕切りは、兼用の一体感を高めるためにも隠さずに透過性のあるものとした方が良いのではないか。

③校庭と公園のレベルを分け、校庭を人工地盤上に設ける案

- ・子どもたちが安心して活動できる環境にするため、校庭と公園のレベルを分けた案は良い。
- ・新施設の建設後に現施設を解体し、それから人工地盤の校庭をつくるのだから、校庭全体が完成するまでには相当の時間を要する。地表面で兼用する案と比べて、工事費は高くなるだろう。
- ・フラットにつながっている方が地域行事はやりやすい。上下の二階層に分かれてしまうと、公園と校庭を一体的に使って地域行事を行うことが難しい。
- ・校庭と公園をつなぐ大階段を設ければ、一体的な利用ができる空間となるのでは。
- ・人工地盤下は奥行きがあり薄暗い空間が広がる可能性があるため、大階段などで公園とつながった人工地盤の上を公園とし、その下に他の機能を配置する立体的利用もあり得るのではないか。
- この案は、人工地盤上にセキュリティが確保された校庭を整備し、その下の地表面において都市計画公園の面積を確保する考えである。人工地盤下の空間も、猛暑時の日除けスペースなど、公園としての必然を持った設えを工夫していく必要があると考えている。（区事務局）
- ・人工地盤下の機能として、公園に関する倉庫やトイレ、現在 5 階にある区民図書室のような機能などが考えられる。公園利用者と相性の良い区民施設は、公園に近い位置にあった方が良い。公園に隣接して図書室やカフェなどを配置するということも考えてみては。
- ・人工地盤下に区民施設などを収めることで上階に余裕が出れば、中間階に小さな園庭などの外部空間をベランダ的に造ることもあり得るのでは。
- ・現状でも防球ネットが低い。ボールが人工地盤の外に出た時に下まで取りにいかなければならない。

④校庭を施設の屋上に設ける案

- ・病院からの見え方、入院棟からどう見えるのかが気になる。

（２）公園に関する意見

①新しく整備する公園

- ・人工地盤案でも、公園部分については自然感が必要である。
- ・新たな公園の中にも、桜を植えてほしい。砂場、子ども用遊具も必要だろう。
- ・病院を利用する方にとっても公園の存在はとてありがたい。
- ・すべての人が使いやすいものになると良い。
- ・ボール遊びは、させてあげたい気持ちはあるが危ない面もある。現状では、病院へ通院している方やリハビリされている方等の利用も多いため、ボールが当たらないか不安がある。

②工事期間中の公園機能

- ・じゃぶじゃぶ池は子どもから人気の高い施設である。工事期間中も継続的に利用できないか。
- 現在のじゃぶじゃぶ池の位置は新たな施設の建設場所となるため、工事期間中の残置は難しい。（区事務局）

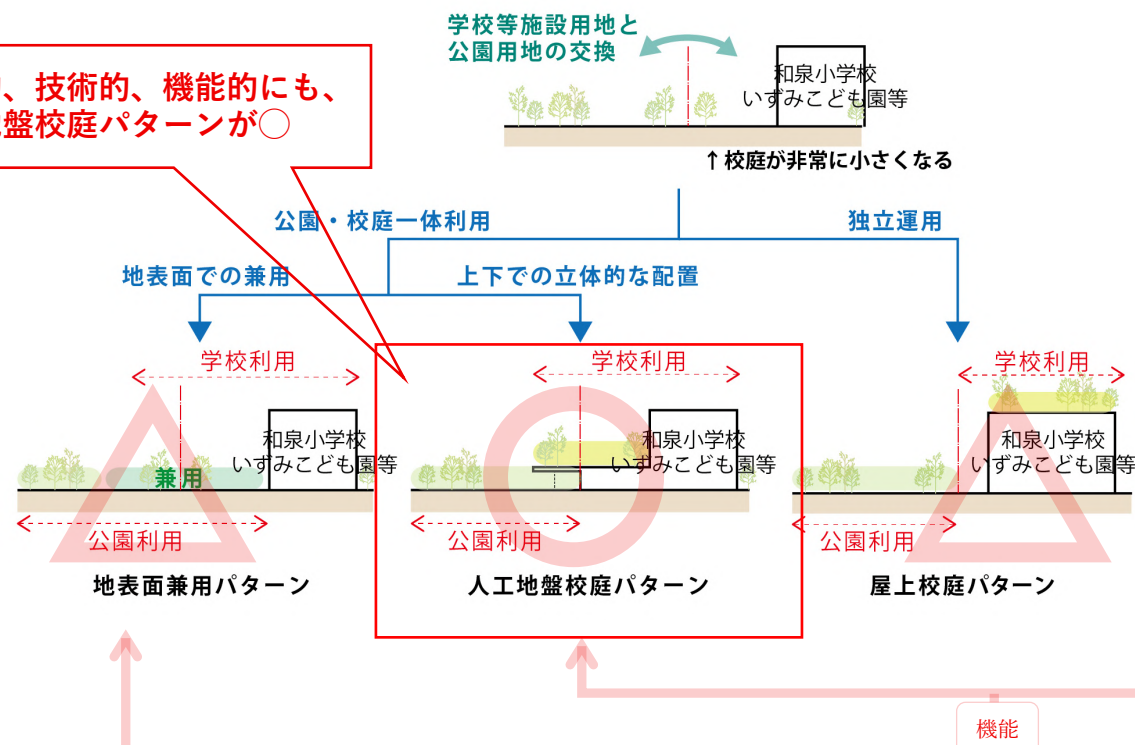
（３）旧ポンプ所跡地について

- ・移転建替えて進めていくとなると、工事期間中長く閉鎖される公園機能の代替が課題。これまでの検討会や地域からのご意見の中でも指摘されている。このため、ポンプ所跡地については、まずは工事期間中の代替公園、代替園庭として活用できればと考えている。（区教育委員会）

第 2 回検討会以降の検討の概要

- ・限られた整備区域内で都市計画公園の面積・機能と十分な教育環境（校庭面積）とを両立させる必要がある。
- ・地表面で公園・校庭をタイムシェアする「地表面兼用パターン」、建物の屋上を校庭とする「屋上校庭パターン」も考えられるが、第 2 回検討会の議論を受け、公園は 1 階、校庭は 2 階と上下に分離することでセキュリティを確保する「人工地盤校庭パターン」について、新たに制度的・技術的・機能的な整理を行った。

制度的、技術的、機能的にも、
人工地盤校庭パターンが○



○公園と校庭の兼用事例（タイムシェア）に関するヒアリング調査[令和 7 年 5 月実施]

調査対象：新宿区（花園小学校・花園公園）
江東区（臨海小学校・臨海公園）

【効果】

- ・公園、学校ともに利用できる広場空間として、地域住民の交流の場として役立っている。
- ・学校の敷地面積が狭くても、広い校庭として利用できる。
- ・児童の体力向上。
- ・自然環境に恵まれた教育環境の実現。

【留意点】

- ・公園として使用できる時間及び空間が大幅に制限される。
- ・外壁等で厳重に隔離されないため、外部から校庭内に侵入することも不可能ではない。
- ・校庭内に公園利用時のゴミ等が落ちていることがある。
- ・一般の公園より高い治安維持の水準が必要。夜間の閉鎖。

→「地表面兼用パターン」は、校庭・公園ともに広い空間を確保できるが、管理運営面から一定の課題あり

○新たな施設・公園に導入する機能についての庁内意向調査[令和 7 年 5 月～6 月実施]

①子ども関係

- ・子どもの遊び場機能
- ・ゲームや飲食ができるスペース
- ・中高生の自習・居場所スペース

②公園関係

- ・既設公園面積の確保
- ・ボール遊び対応（年齢・体格が異なる対象、校庭開放も含め）
- ・花火ができるスペースと仕様
- ・自転車置き場、猛暑対策としての日よけ
- ・イベントの際の天候に左右されない屋根スペース、搬入スペース、電源

⑤環境関係その他

- ・施設の緑化・ZEB 化、木材利用、省エネ・再エネ、クールスポット
- ・選挙時の投票所での利用

→「人工地盤校庭パターン」であれば、施設が公園に隣接することを活かした公園の多機能化や地域利用者（公園利用者）向け機能の充実が可能

③地域交流関係

- ・シルバートレーニング等の福祉関係の事業ができるスペース
- ・地域が利用できる会議室
- ・お祭の期間中の神輿等展示スペース
- ・中高生の自習・居場所スペース

④防災関係

- ・マンホールトイレ、災害用井戸
- ・地域の重要資機材の配置、災害廃棄物一時保管の検討
- ・隣接する緊急医療救護所（三井記念病院）との連携

制度

技術

機能
技術

○公園内の人工地盤校庭に関する制度的検討[令和 7 年 6 月～9 月実施]

- ・都市公園の法令においては、オープンスペースの確保のため、公園施設の建ぺい率を規定（通常 2%）。
- ・ただし、公園施設の種類によりこれを超えることができる。
 - 休養施設、教養施設、備蓄倉庫等を設置する場合 +10%
 - 屋根付広場等高い開放性を有する建築物 +10%

→公園内施設としての人工地盤であれば、合計 1,000 m²程度（4,600 m²（公園面積）×22%（2+10+10）≒1,000 m²）まで公園内に建築可能

○施工者ヒアリング調査[令和 7 年 7 月実施]

調査対象：ゼネコン 2 社

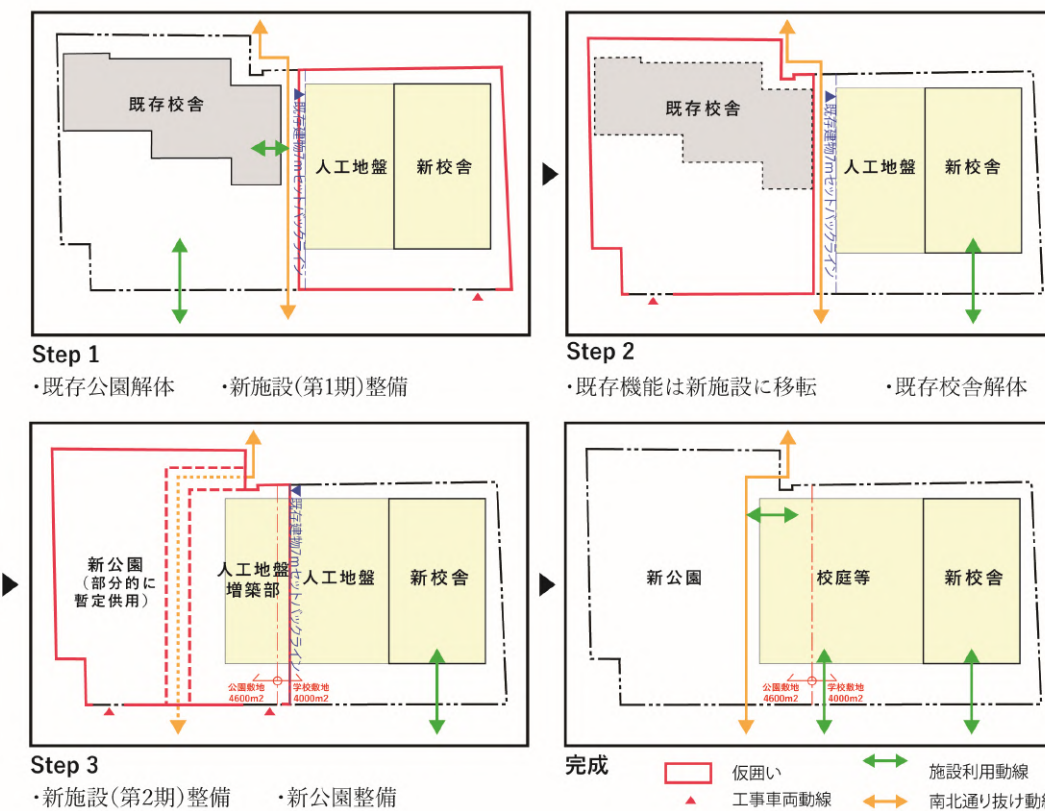
【技術的見解】

- ・既存校舎外壁から新校舎まで 6~7m の離隔を確保すれば、地下の掘削や解体、南北貫通通路の確保が可能。
- ・人工地盤部の打ち継ぎ（第 1 期と第 2 期工事）は施工上可能。

【留意点】

- ・既存校舎解体時が最も大きな騒音・振動を伴うため、騒音・振動計によるモニタリングや周辺との事前合意が必要。
- ・地表面兼用パターンと比較すると人工地盤校庭パターンは、施工期間が長くなる（約半年）。
- ・建設現場の週休 2 日等の影響及び地下躯体の存在により既存校舎解体には時間を要する。

→「人工地盤校庭パターン」は、施工期間は要するものの、施工は可能



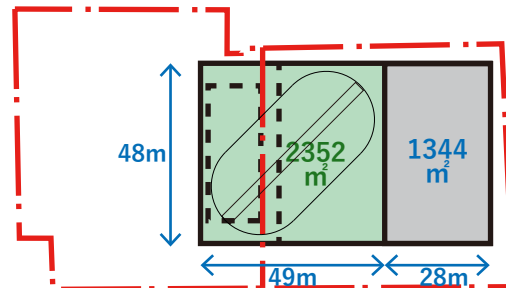
○人工地盤校庭パターンとした場合の施設内の機能配置の検討[令和 7 年 6 月～9 月実施]

→資料 3 に示すとおり、必要な諸機能・面積を納めることが可能

人工地盤校庭パターンにおける施設と公園のプランニング

【矩形配置】

- 正方形に近い形状のグラウンド
- 病院への圧迫感軽減



■ 矩形東案①

□ 案の特徴

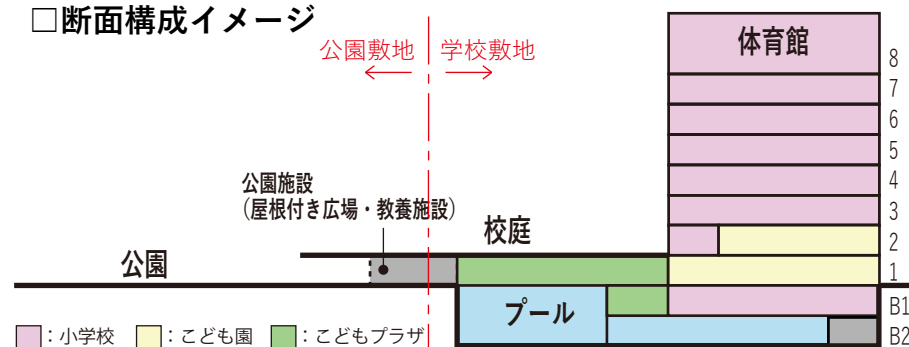
○ 施設

- 体育館を最上階とする（構造的負担の軽減）
- 小学校は大階段であがった2階を昇降口とし、主要諸室は3-7階に配置（既存和泉小同様のアクセス方法）
- こども園を1-2階とし、園庭は1階の道路側専用園庭と2階の小学校校庭の両方を活用可能
- こどもプラザを1-B1階とする（B1Fはドライエリア採光）
- プールを地階とし、B1-B2階の吹抜け空間とする
- 地域利用の機能（会議室、倉庫）をB2階に配置
- 人工地盤下の公園施設（図書室などの教養施設）を学校等施設に寄せて配置し、人工地盤下の屋根付き広場を広く確保

○ 公園

- 屋根付き広場に屋外デッキを取り込み、芝生広場と屋根下空間を連続的に結ぶことで、テラス利用などを一体的な空間活用を促進
- 現況の和泉公園と同様に、おおらかな芝生広場と遊具スペースを確保

□ 断面構成イメージ

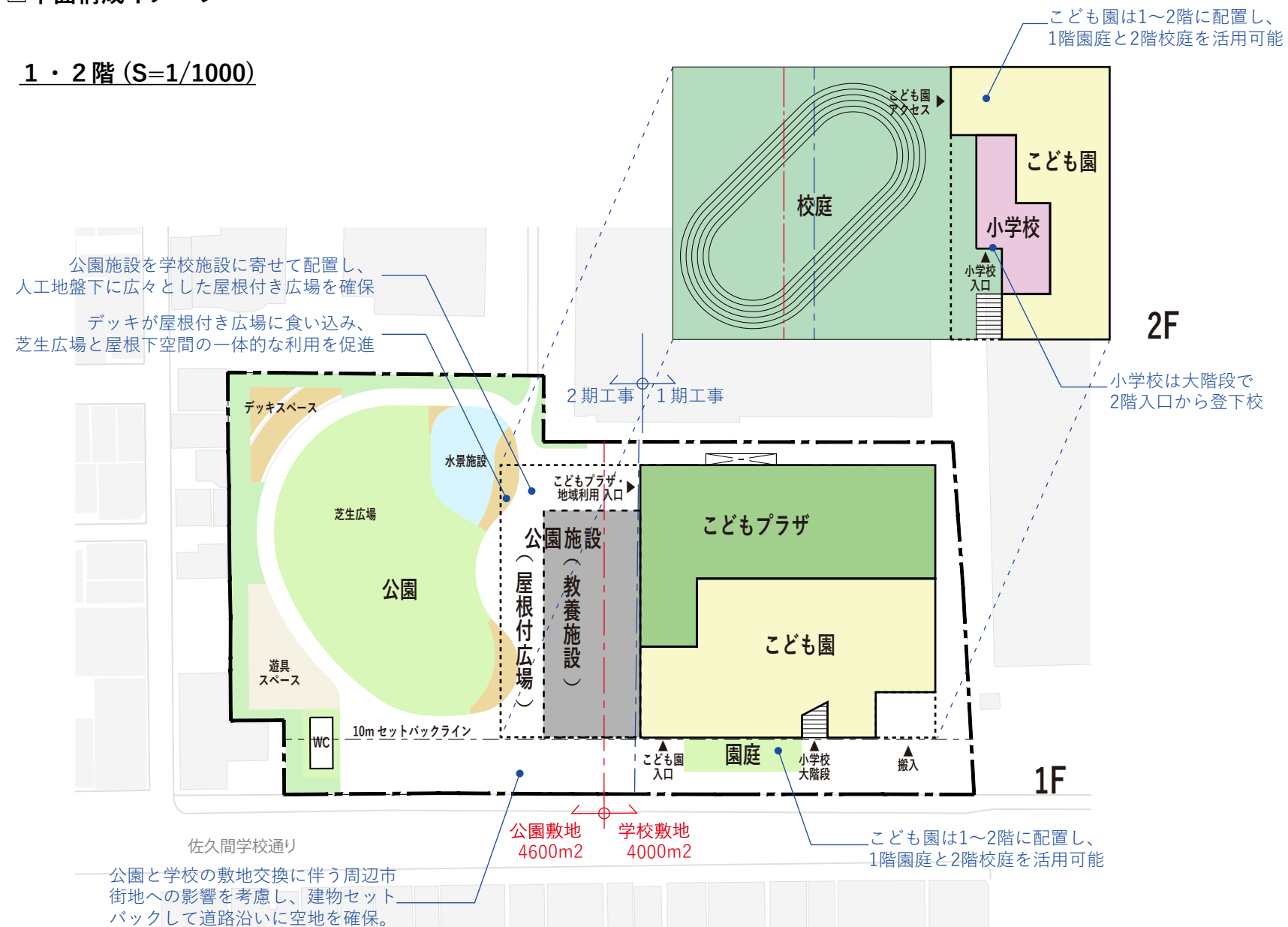


□ 面積表

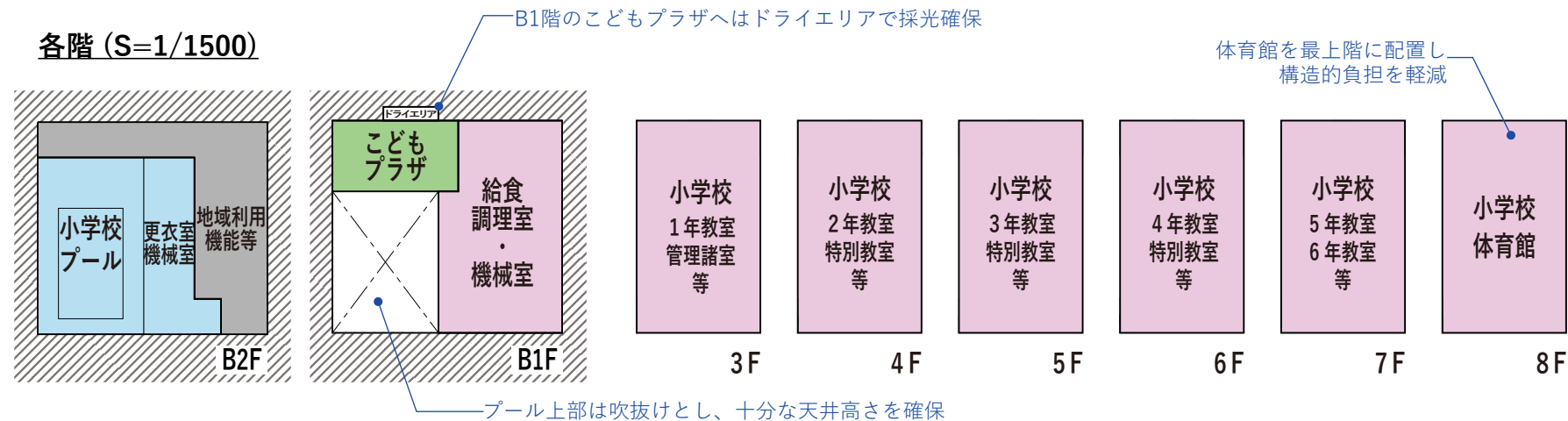
	本案	R5 年度基本構想想定面積
小学校	11,659 ㎡	10,840 ㎡
こども園	2,055 ㎡	2,368 ㎡
こどもプラザ	1,616 ㎡	1,792 ㎡
公園施設・地域利用等	1,067 ㎡	
合計	16,397 ㎡	15,000 ㎡

□ 平面構成イメージ

1・2階 (S=1/1000)



各階 (S=1/1500)

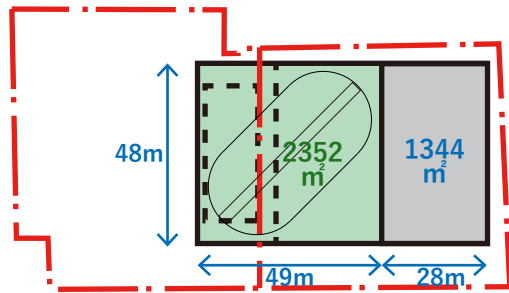


※ 本検討はあくまで一例であり、今後は検討会等で寄せられる意見を踏まえ、より適切な配置、構成を選定のうえ、基本計画案を策定する

人工地盤校庭パターンにおける施設と公園のプランニング

【矩形配置】

- 正方形に近い形状のグラウンド
- 病院への圧迫感軽減



■ 矩形東案②

□ 案の特徴

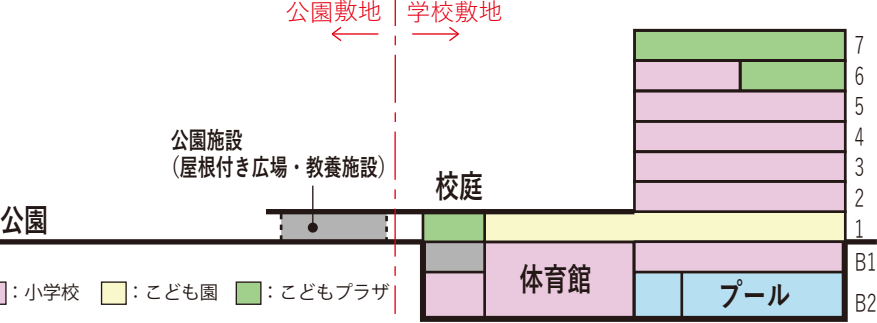
○ 施設

- 体育館、プールを地下とする（建物高さを抑制）
- 小学校は大階段であがった2階を昇降口とし、主要諸室は2-6階に配置（既存和泉小同様のアクセス方法）
- こども園を1階のみとし、1階の道路側専用園庭を利用可能
- こどもプラザを1階と6-7階とする
- 地域利用の機能（会議室、倉庫）を1-B1階に配置
- 人工地盤下の公園施設（図書館などの教養施設）を学校等施設から離して配置し、北側へ抜ける貫通通路を確保するとともに、通路に面した利用可能な諸室が増えることによる利便性の向上
- 体育館を地下に計画することで建物の高さを抑えつつ、地下階はより深い構成とする

○ 公園

- フットサルやバスケットボールなど、多様なボール遊びができるよう、フェンスで囲まれた安全なボール遊び場を確保

□ 断面構成イメージ

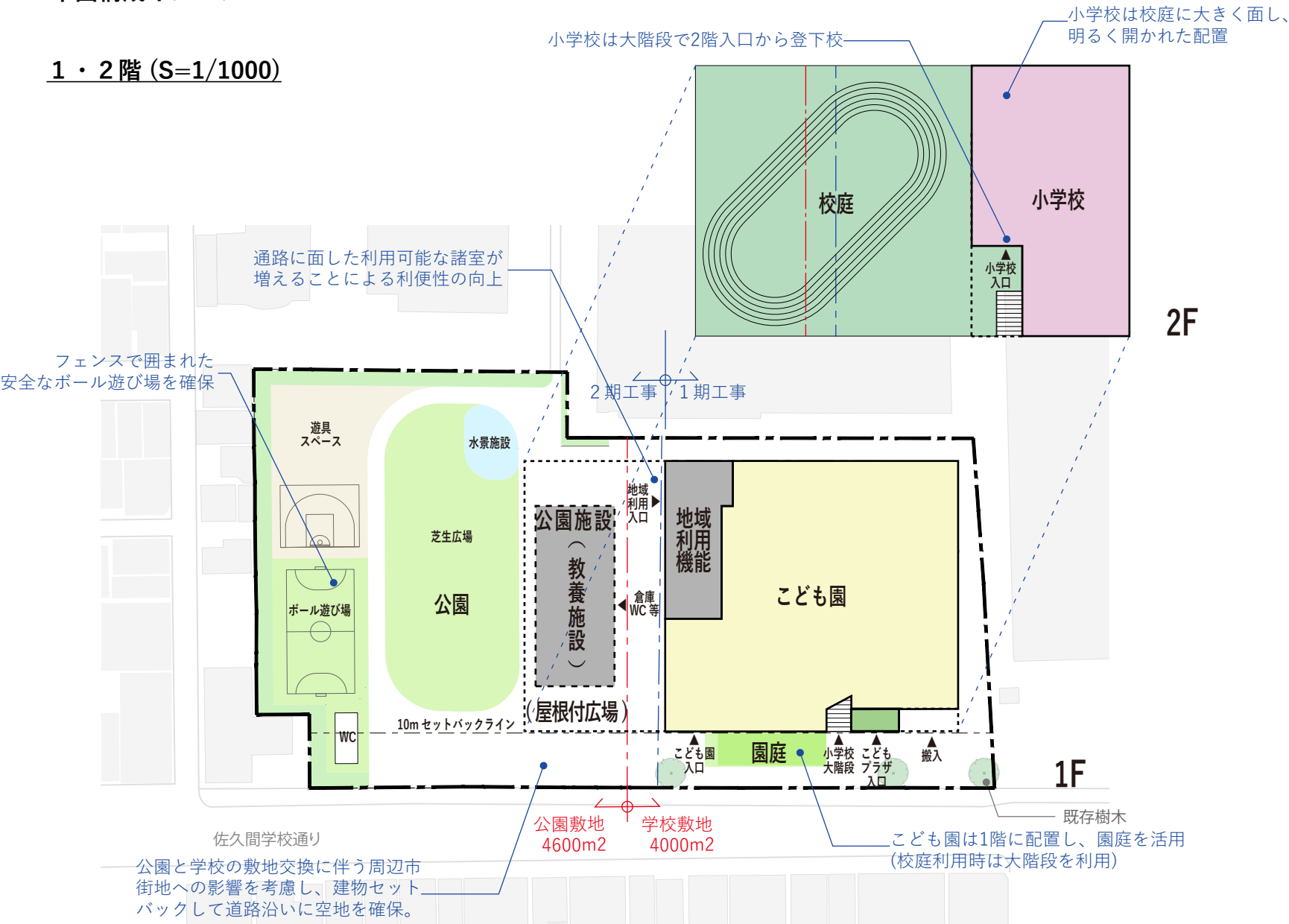


□ 面積表

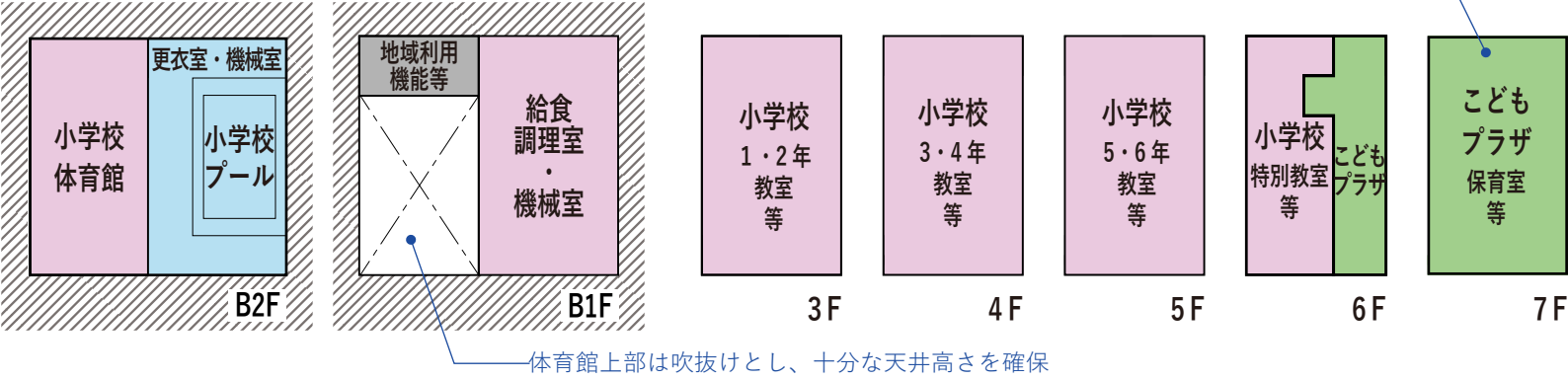
	本案	R5 年度基本構想想定面積
小学校	9,912 m ²	10,840 m ²
こども園	2,124 m ²	2,368 m ²
こどもプラザ	1,895 m ²	1,792 m ²
公園施設・地域利用等	1,066 m ²	
合計	14,997 m ²	15,000 m ²

□ 平面構成イメージ

1・2階 (S=1/1000)



各階 (S=1/1500)

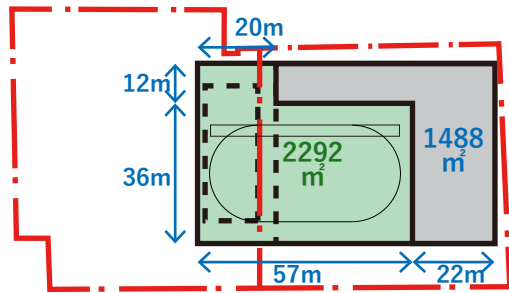


※ 本検討はあくまで一例であり、今後は検討会等で寄せられる意見を踏まえ、より適切な配置、構成を選定のうえ、基本計画案を策定する

人工地盤校庭パターンにおける施設と公園のプランニング

【L字配置】

- ・階数が抑えやすく、動線効率に有利
- ・校舎の外周長が長くなるため、教室に採光や通風を取り入れやすい



■ L字案①

□案の特徴

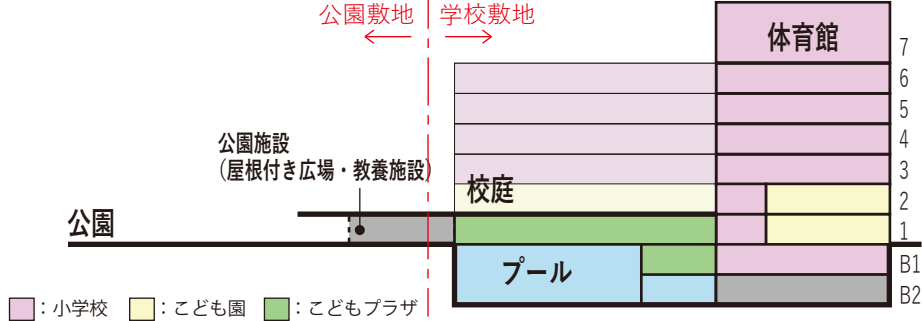
○施設

- ・体育館を最上階とする（構造的負担の軽減）
- ・小学校は大階段であがった2階を昇降口とし、主要諸室は3-6階に配置（既存和泉小同様のアクセス方法）
- ・こども園を1-2階とし、園庭は1階の道路側専用園庭と2階の小学校校庭の両方を活用可能
- ・こどもプラザを1-B1階とする（B1Fはドライエリア採光）
- ・プールを地階とし、B1-B2階の吹抜け空間とする
- ・地域利用の機能（会議室、倉庫）をB2階に配置
- ・人工地盤下の公園施設（図書室などの教養施設）を学校等施設に寄せて配置し、人工地盤下の屋根付き広場を広く確保

○公園

- ・公園内から施設2階の校庭へとつながるブリッジを設置し、公園側から校庭へのアクセスを確保
- ・ブリッジへ登る動線周辺には、すべり台など高低差を活かした遊具を配置し、立体的な遊び場としての魅力を向上

□断面構成イメージ

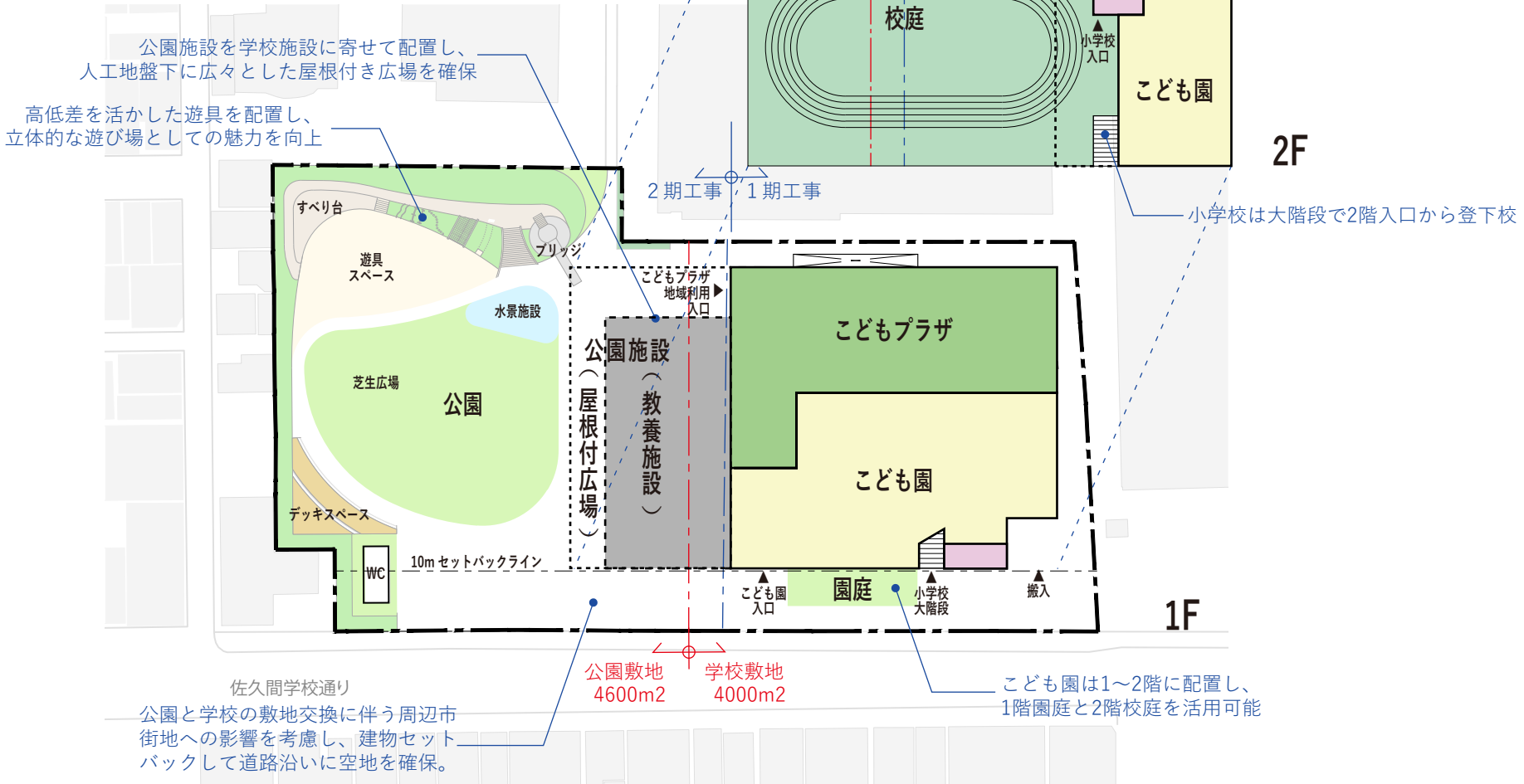


□面積表

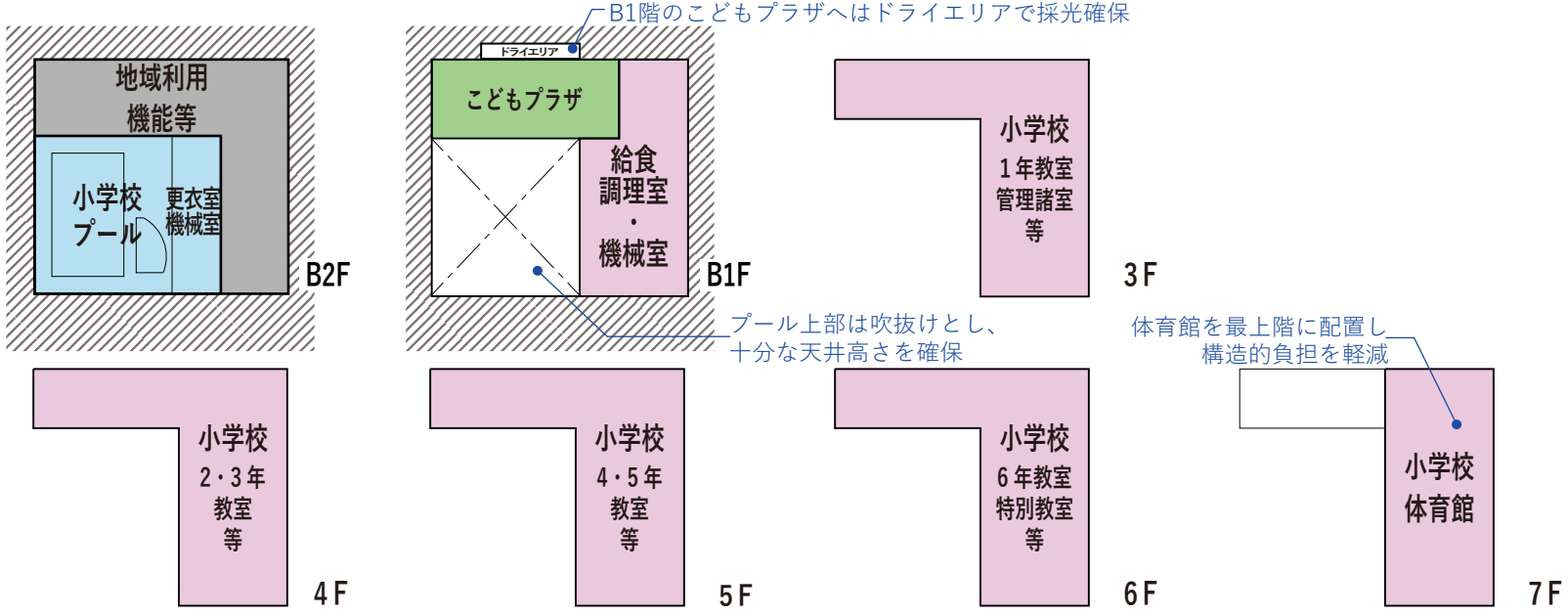
	本案	R5 年度基本構想想定面積
小学校	9,096 m ²	10,840 m ²
こども園	2,389 m ²	2,368 m ²
こどもプラザ	1,776 m ²	1,792 m ²
公園施設・地域利用等	2,016 m ²	
合計	15,277 m ²	15,000 m ²

□平面構成イメージ

1・2階(S=1/1000)



各階 (S=1/1500)

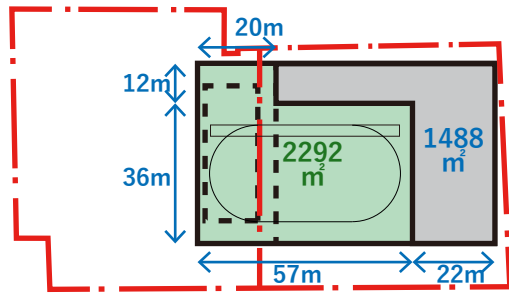


※ 本検討はあくまで一例であり、今後は検討会等で寄せられる意見を踏まえ、より適切な配置、構成を選定のうえ、基本計画案を策定する

人工地盤校庭パターンにおける施設と公園のプランニング

【L字配置】

- 正方形に近い形状のグラウンド
- 校舎の外周長が長くなるため、教室に採光や通風を取り入れやすい



■ L字案②

□ 案の特徴

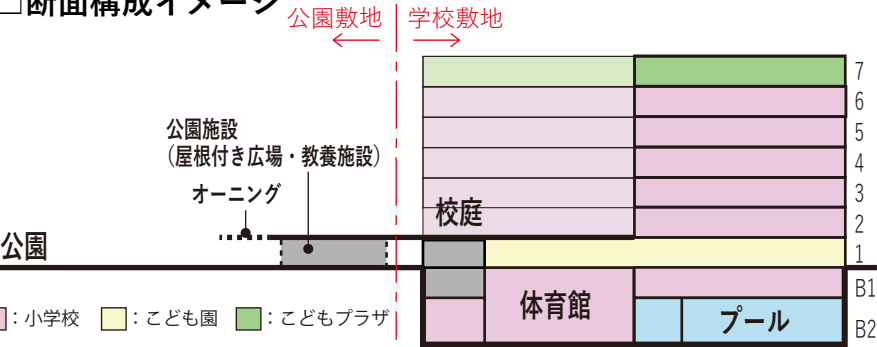
○ 施設

- 体育館、プールを地下とする（建物高さを抑制）
- 小学校は大階段であがった2階を昇降口とし、主要諸室は2-6階に配置（既存和泉小同様のアクセス方法）
- こども園を1階のみとし、1階の道路側園庭を利用可能
- こどもプラザを7階とする
- 地域利用の機能（会議室、倉庫）を1-B1階に配置
- 人工地盤下の公園施設（図書室などの教養施設）を学校等施設から離して配置し、貫通通路や公園側からの利便性を確保

○ 公園

- 芝生広場と向き合うオーニングを面的に設置し、日常利用だけでなくイベントにも活用できる柔軟な屋根下空間を確保
- 地域の方々の創意工夫を活かした活動が展開できるプレイパークを確保し、多様な利用を育む

□ 断面構成イメージ

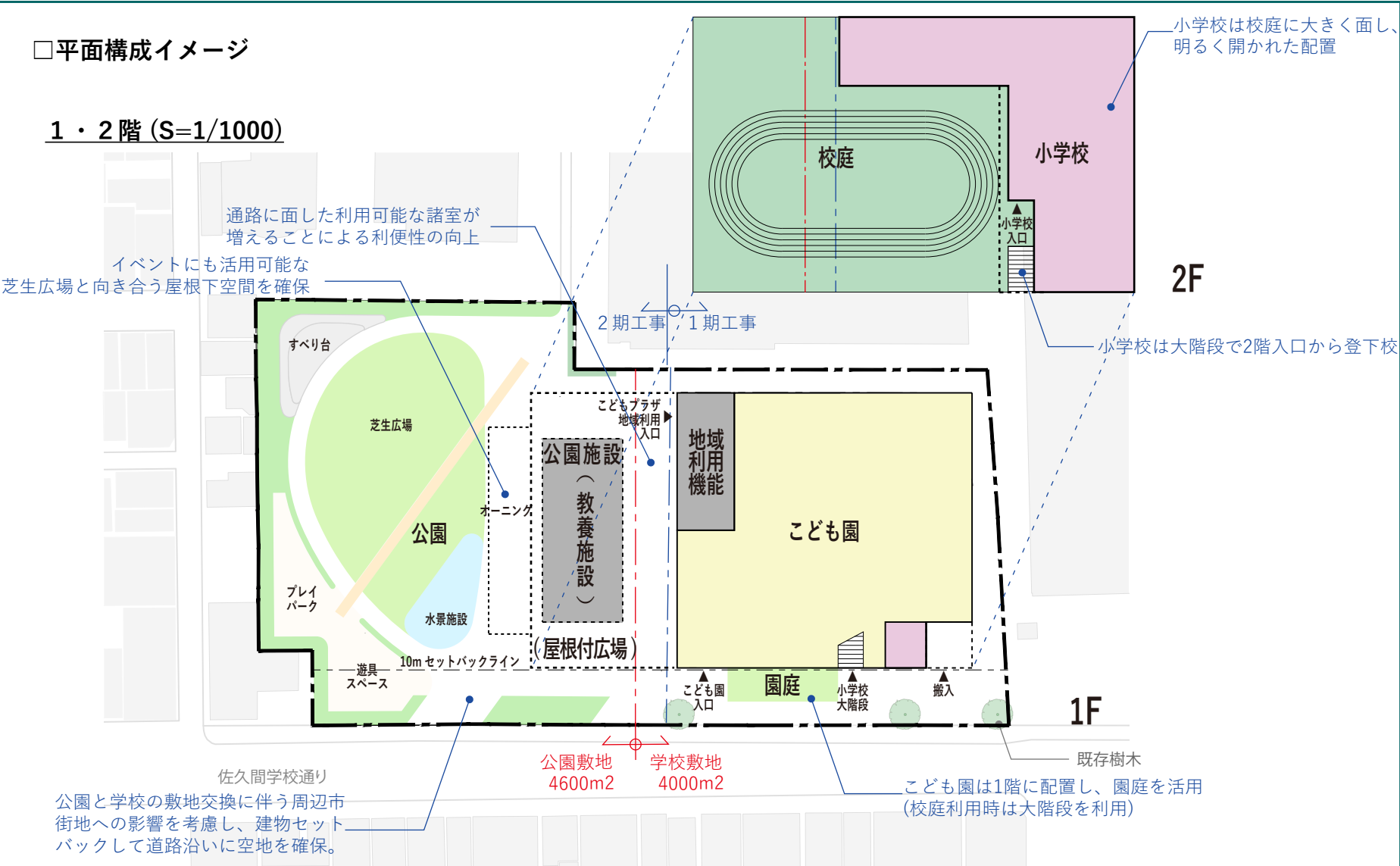


□ 面積表

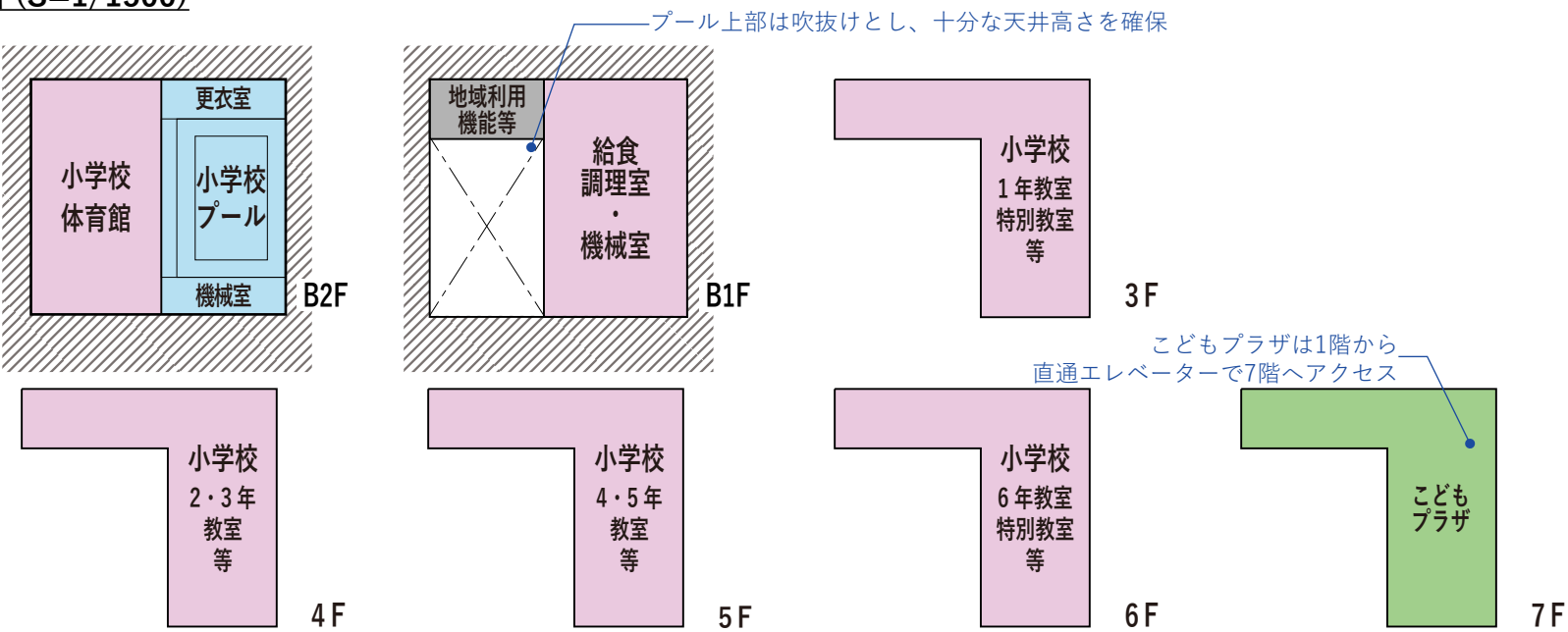
	本案	R5 年度基本構想想定面積
小学校	11,002 m ²	10,840 m ²
こども園	2,168 m ²	2,368 m ²
こどもプラザ	1,410 m ²	1,792 m ²
公園施設・地域利用等	990 m ²	
合計	15,570 m ²	15,000 m ²

□ 平面構成イメージ

1・2階 (S=1/1000)



各階 (S=1/1500)



※ 本検討はあくまで一例であり、今後は検討会等で寄せられる意見を踏まえ、より適切な配置、構成を選定のうえ、基本計画案を策定する

1. 施設の構成・配置の考え方

○現況

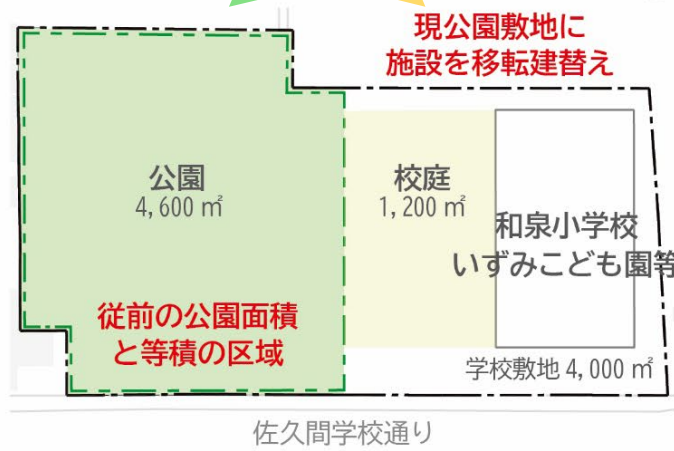
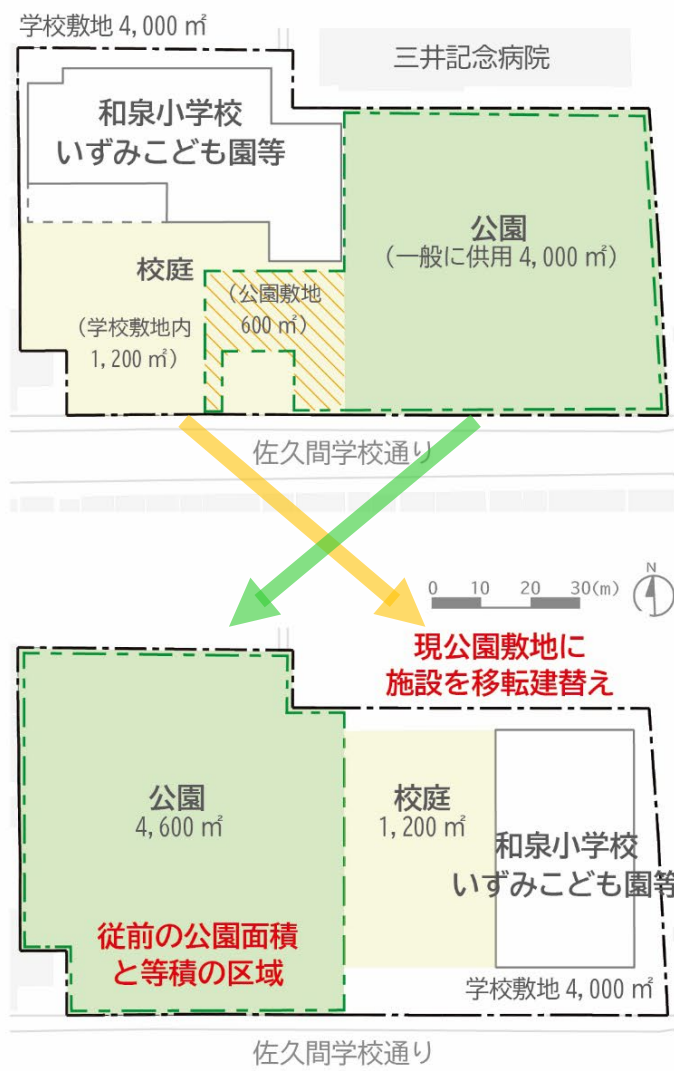
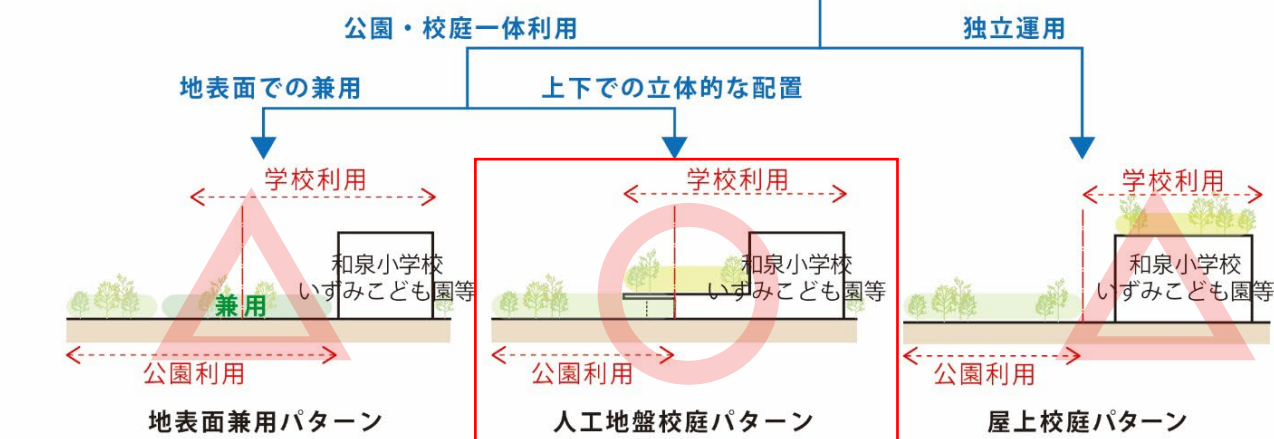
- 和泉小学校・いずみこども園等施設（ちよだパークサイドプラザ）は、竣工から38年が経過し、老朽化等が課題
- 現地建替えの場合は、仮施設への移転が必要
- 隣接する和泉公園は、都市計画公園区域のうち約600㎡が和泉小学校の校庭として使用されている

○敷地の入れ替えによる整備

- 小学校・こども園の機能継続の観点から、隣接する和泉公園敷地へ移転建替え
- 入れ替え後も都市計画公園の面積（4,600㎡）は等積
- 単純に新たな学校敷地に整備した場合は、従前の校庭利用面積約1,800㎡（1,200㎡+600㎡）が確保できない

○敷地の入れ替えによる課題と解決策

- 限られた整備区域内で都市計画公園の面積・機能と十分な教育環境（校庭面積）とを両立させる必要がある
- 解決策としては、地表面で公園・校庭をタイムシェアする「地表面兼用パターン」、建物の屋上を校庭とする「屋上校庭パターン」が考えられるが、セキュリティを確保しつつ校庭を広く確保でき、公園の多機能化にも寄与する「人工地盤校庭パターン」を採用

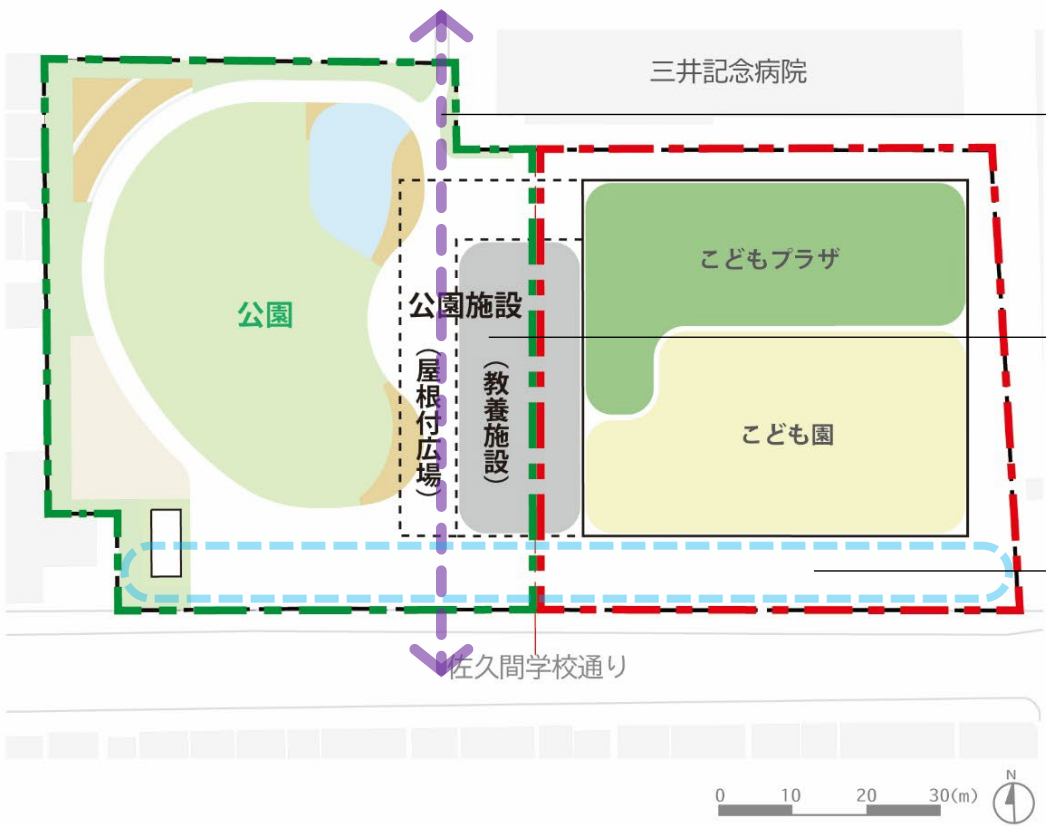
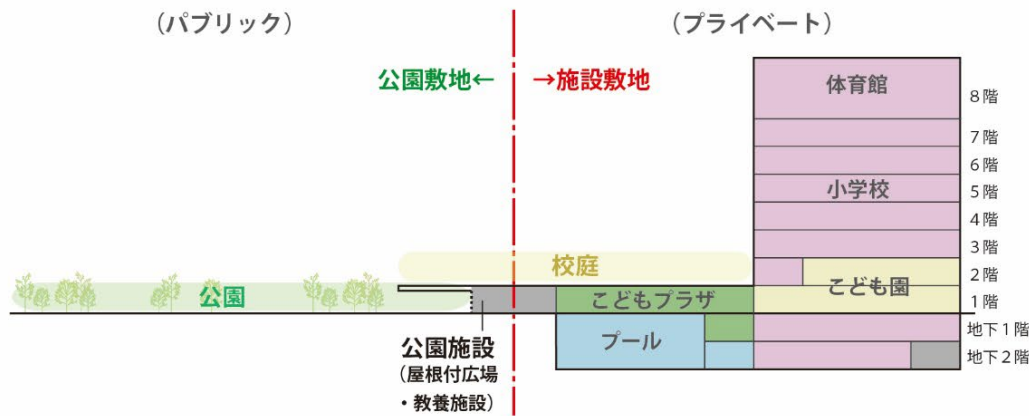


○施設の整備イメージ

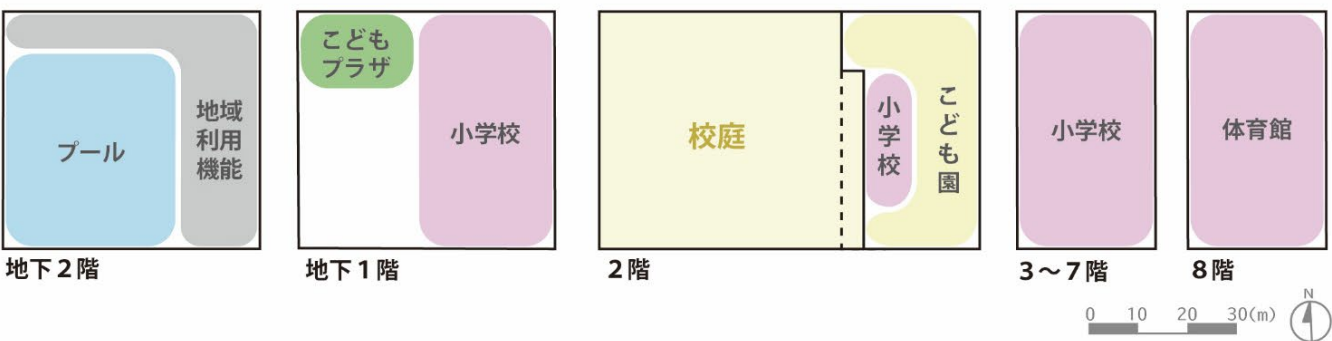
※図示している整備イメージは一例であり、今後の基本計画・設計を通じて具体的な公園・施設のプランを検討します

- 施設の空間や機能を拡充し、各機能の必要面積を確保
- 各施設の利用者動線、諸室配置を踏まえた施設の実現を目指す
- 公園と校庭の立体的な一体利用が可能な配置による施設・公園の再整備

施設	想定面積	既存面積
小学校	約12,000㎡	7,090.7㎡
こども園	約2,000㎡	1,941.8㎡
こどもプラザ他	約2,500㎡	2,422.4㎡
施設合計	約16,500㎡	11,454.9㎡



- 佐久間学校通りと北側（三井記念病院側）を行き来できる動線を確保
- 公園内の人工地盤は都市公園の規定に基づく公園施設（屋根付広場・教養施設等）として整備
- 沿道のオープンスペースの創出
- 周囲の市街地形成への影響を踏まえ、道路と一体となった空地を確保
- 旧ポンプ所跡地を工事期間中の代替公園、代替園庭として活用

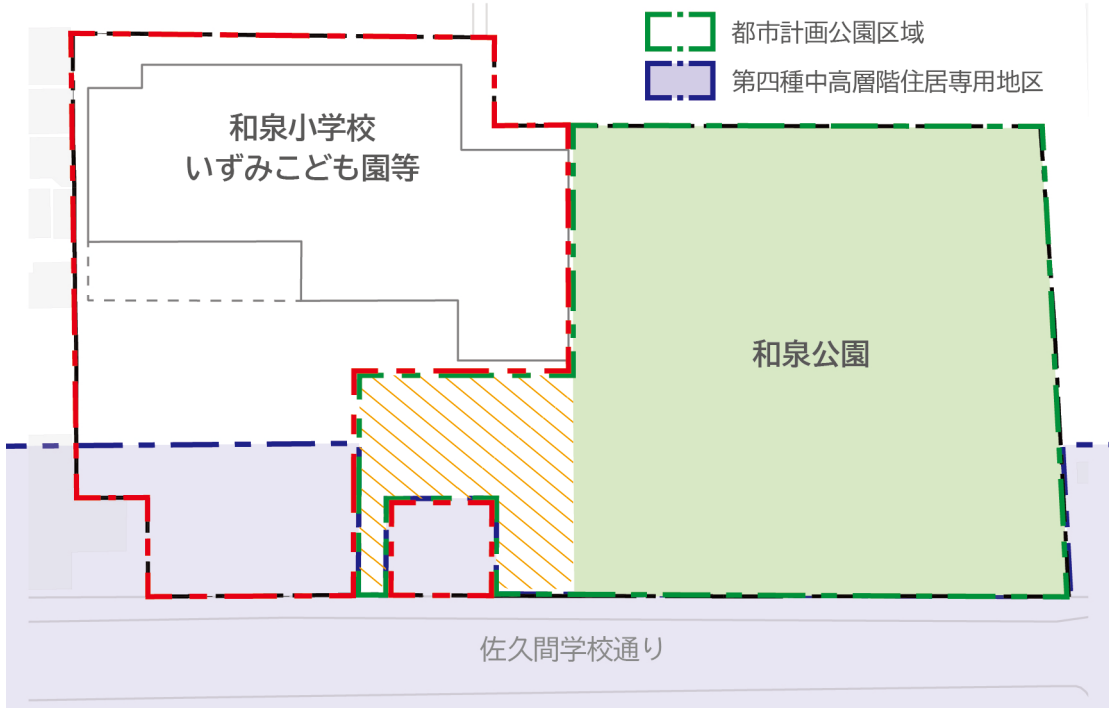


2. 敷地の入れ替えによる効果等

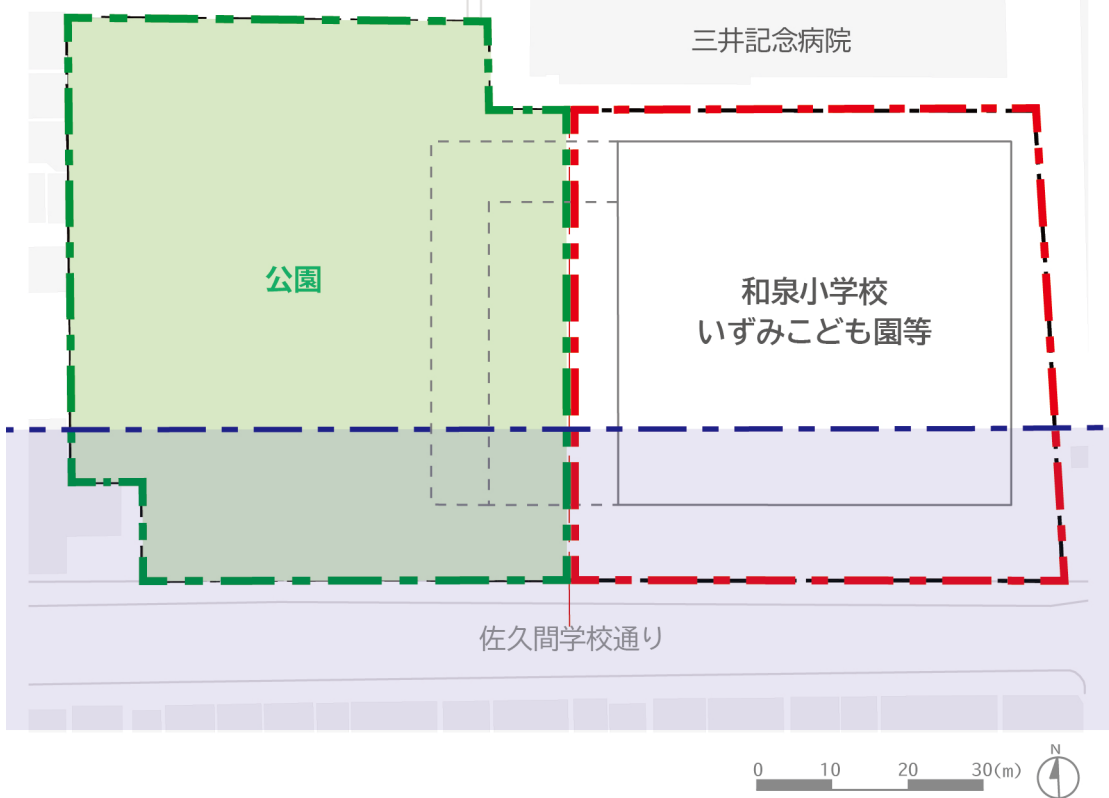
○都市計画変更の必要性

- 敷地の入れ替えによる施設・公園の整備を実現するため、現在、両敷地に定められている都市計画（都市計画公園、第四種中高層階住居専用地区）の区域（位置）を変更する必要がある

【現行都市計画】



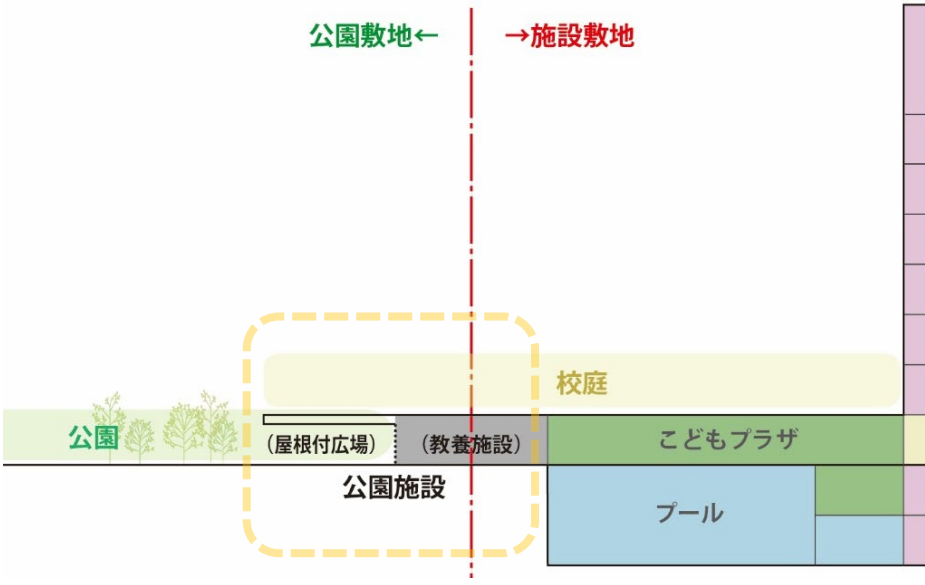
【都市計画変更案】



○敷地の入れ替えによる効果

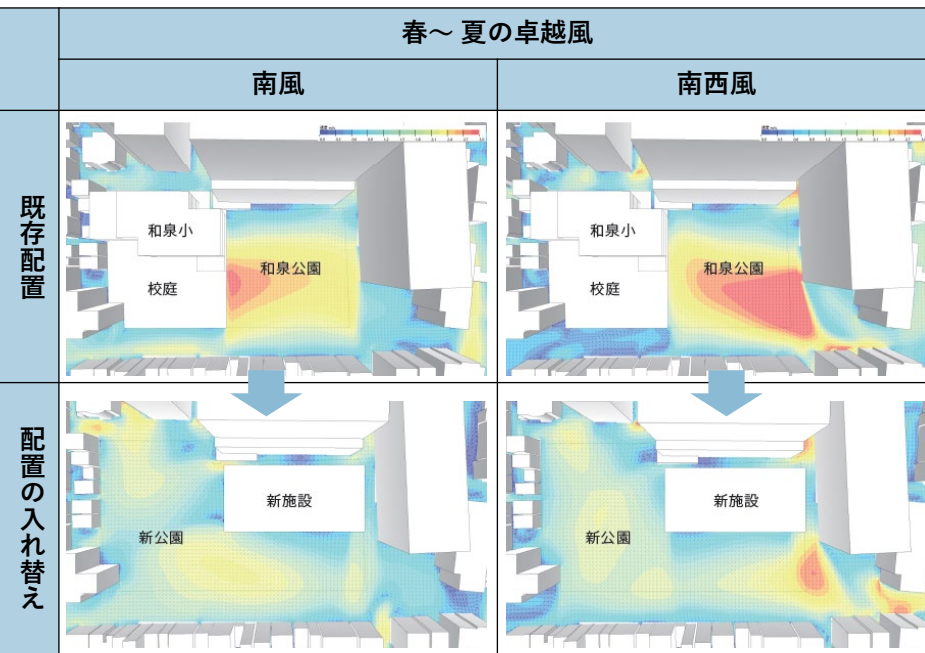
公園と校庭の立体的な配置による空間の創出

- 立体的な整備により、公園と校庭の必要面積の確保が可能
- 校庭として利用する人工地盤を、公園施設である屋根付広場・教養施設（図書室等）として整備するとともに、施設敷地側にもその機能を拡張させ、公園自体の利用や活動の活性化の促進と、公園と施設の一体性を創出



風環境の改善

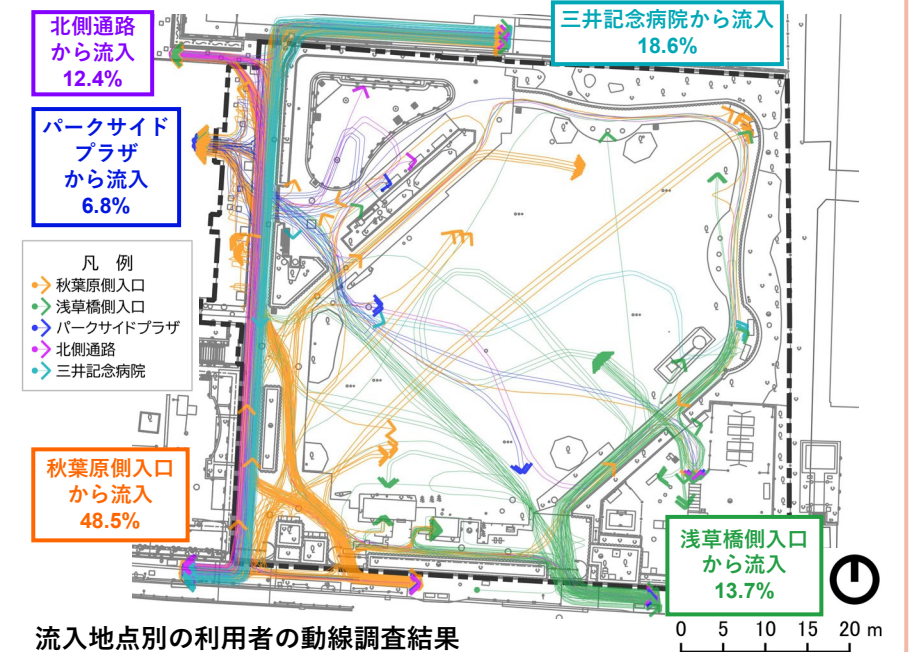
- 現状は三井記念病院にあたる南～南西からの風の吹きおろしにより、公園内で強風が生じる範囲が発生
- 施設と公園の配置を入れ替えると、地上レベルで強風が生じる範囲の削減が期待できる



風環境シミュレーション：敷地を上空から見た図に地表面+1mの高さに吹く風の強さを色（青色→赤色、弱風→強風）で表示

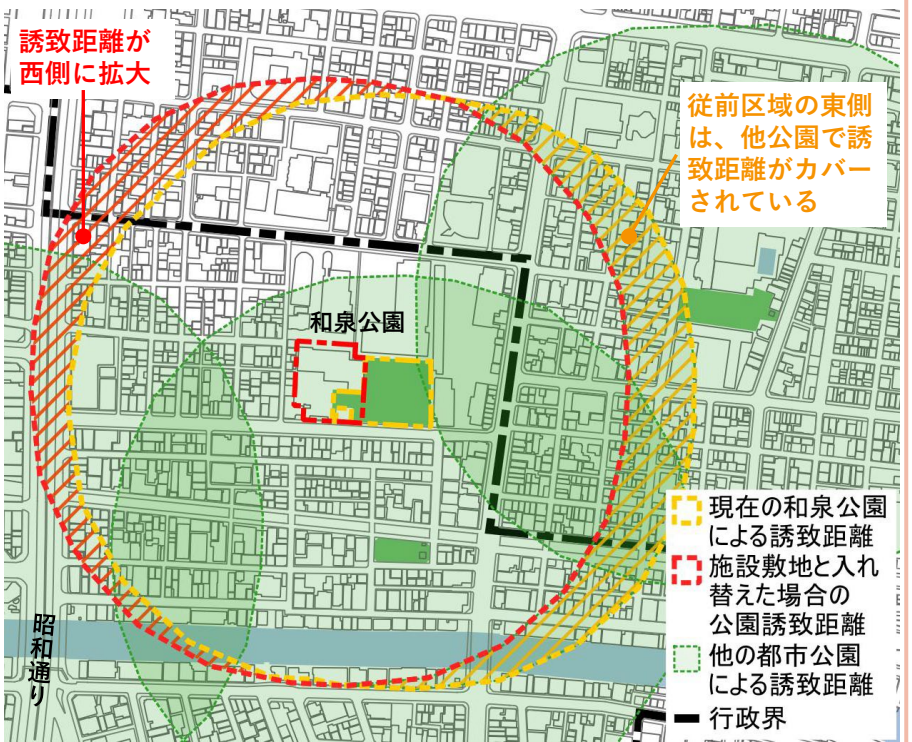
より利用しやすい公園の実現

- 現状も多様な公園の利用が見られる中、公園の再整備による遊びと学びの場としての機能を充実
- 特に南西側から北側通路や三井記念病院への往来が多い現状を踏まえると、公園が西側に移動することでアクセス性が向上

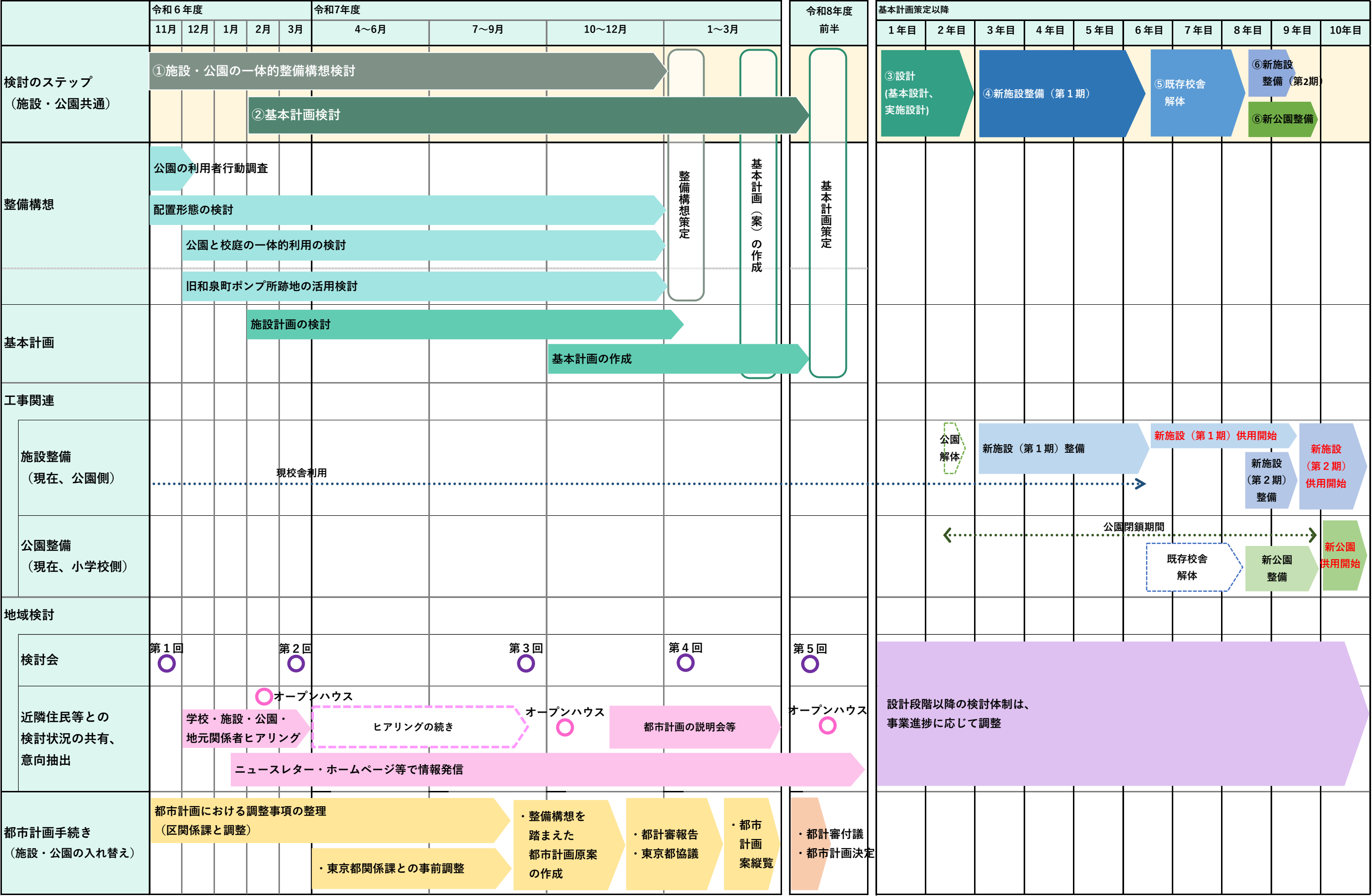


公園誘致距離内のエリアの拡大

- 都市公園には公園誘致距離の考え方がある（街区公園で250m）
- 公園が西側に移動することで、これまで周辺の公園も含めて誘致距離外であったエリアが一部改善される



和泉小学校・いずみこども園・和泉公園整備 今後の検討スケジュール（想定）



第2回和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体整備に向けた検討会〔議事概要〕

日 時	令和7年3月27日（木）18:00～20:10			
場 所	ちよだパークサイドプラザ7階会議室			
出席者	所属			出席者
委 員	施設関係者	小学校・こども園	和泉小学校	校長
			学校運営協議会	（欠席）
			いずみこども園	園長
	地域関係者	町会	秋葉原東部町会連合会	会長
			地元町会（神田和泉町町会）	会長
		園児・児童・青少年	和泉小学校 PTA	副会長
			いずみこども園 PTA	会長
			青少年委員	委員
		代替園庭利用	アイグラン保育園東神田	園長
	隣接関係者	災害拠点病院 緊急医療救護所	三井記念病院	事務長
	学識経験者	アドバイザー（地域デザイン・建築計画）	日本大学理工学部教授	山中 新太郎
	千代田区	公園管理者	環境まちづくり部 環境まちづくり総務課長	神原 佳弘
		教育委員会	子ども部 教育担当部長	○ 大森 幹夫

○ 進行役（モデレーター）

オブザーバー	和泉橋出張所、道路公園課
事 務 局	千代田区教育委員会事務局 子ども部 子ども施設課
コンサルタント	株式会社都市環境研究所、ラーバンデザインオフィス合同会社
次 第	○前回以降の調査について ○地域への説明と意見について ○対応のポイントについて ○配置パターンの追加について ○今後の検討スケジュールについて
資 料	次第 資料1 検討状況の概要（令和7年度2月時点） 資料2 和泉公園利用状況調査の結果概要 資料3 公園、校庭等の風環境のシミュレーション結果概要 資料4 第1回和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体整備に向けた検討会意見まとめ 資料5 個別ヒアリングの概要 資料6 オープンハウス型地域説明会の概要 資料7 和泉小学校児童アンケートの実施結果 資料8 和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体的整備 News Letter vol.1 資料9 対応のポイントについて 資料10 施設と公園の配置形態の検討 資料11 今後の検討スケジュール

	参考資料 1 第 1 回和泉小学校・いずみこども園等施設と和泉公園との一体整備に向けた検討会〔議事概要〕
--	--

意見等要旨

前回以降の調査	[公園の利用状況調査] ・代替園庭として利用する際は、公園を全体的に利用している。 ・調査は日中 16 時までしか行われていないが、夕方の 17 時頃には、こども園にお迎えに来た保護者とその子どもが公園を利用している場面が見られる。 [風環境シミュレーション] ・学校と公園を入れ替えることで公園の風環境が改善されとのことだが、新施設の建物の形がこのシミュレーションと異なる場合でも同じことが言えるか。 →改善度合いは変わる可能性がある。形状に合わせ、別途シミュレーションが必要である。(区事務局)
オープンハウスや個別ヒアリングでの意見と対応	・学校敷地と公園敷地の入れ替えについては、公園も含めた全体の機能が向上するのであれば進めても良いとする意見が代表的だった。(区事務局) ・しかし、校庭と公園と兼用しタイムシェアする考え方については、セキュリティの確保や校庭が覗きこまれることへの懸念が示された。このため、公園の上に人工地盤を張り出し校庭とする案と最上階の屋上に校庭を設ける案を追加した。(区事務局)
地表面兼用案	・校庭もこども園の園庭としての利用することを考えると、平日は 17 時までは公園側に開放しないでほしい。 ・公園との兼用部分については、日常的には校庭として使い、イベントの際にのみ開けられるようにしたらどうか。 →兼用部分は公園の土地でもあるため、土日以外でも開放する時間を増やす検討は必要。夜間については防犯上も開放しないことになるだろう。(区事務局) ・道路から校庭が覗けないよう目線の高さ部分だけを隠せる仕切りで囲んではどうか。一方、公園と校庭との仕切りは、兼用の一体感を高めるためにも隠さずに透過性のあるものとした方が良いのではないか。 →覗かれることへの懸念は、公園側からの視線も含めての意見だったと思われる。(区事務局)
人工地盤案	・子どもたちが安心して活動できる環境のためには、校庭と公園のレベルを分ける案は良い。目隠しを設ける必要もなくなる。 ・セキュリティ上、校庭側から学校の入口に入るほうが良いのでは。 ・これまでの地表面で兼用する案と比べて、工事費は高くなるだろう。 ・新施設が建てられた後に現施設を解体して、それから人工地盤の校庭をつくるのだから、校庭の全体が完成するまでには相当の時間を要することになる。 ・現状も公園と校庭が分かれているが、フラットにつながっている方が地域行事はやりやすい。上下の二階層に分かれてしまうと、公園と校庭を一体的に使って地域行事を行うことが難しい。 ・校庭と公園をつなぐ大階段を設ければ、一体的な利用ができる空間となるのでは。 ・大きな滑り台で繋ぐのも魅力的だと思う。 ・人工地盤下は奥行きがあり薄暗い空間が広がる可能性があるため、大階段などで公園とつながった人工地盤の上を公園とし、その下に他の機能を配置する立体的利用もあり得るのではないか。

	→この案は、人工地盤上にセキュリティが確保された校庭を整備し、その下の地表面において都市計画公園の面積を確保する考えである。もちろん、人工地盤下の空間も、猛暑時の日除けスペースなど、公園としての必然を持った設えを工夫していく必要があると考えている。(区事務局) ・人工地盤下は、公園に関する倉庫やトイレなどで埋めてはどうか。 ・現在5階にある区民図書室のような機能を、この人工地盤下に持ってくる考えもあるのでは。 ・子どもたちにとっても図書館が利用しやすい位置にあるのは良い。昌平小学校は1階に図書館があり利用しやすい。 ・公園利用者と相性の良い区民施設は、公園に近い位置にあった方が良い。公園に隣接して図書室やカフェなどを配置するということも考えてみては。 ・人工地盤下に区民施設などを収めることで上階に余裕が出れば、中間階に小さな園庭などの外部空間をベランダ的に造ることもあり得るのでは。 ・現状でも防球ネットが低い。人工地盤上で野球をするとボールが外に出た時に下まで取りにいかなければならない。 ・都市公園の制度上、人工地盤案の実現が難しいことはあるか。 →全く無理ということはないと考える。子どもたちだけでなく、公園を利用される方の意見をしっかり取り入れてほしい。(区公園管理者)
屋上校庭案	・この案は建物が太くなり、奥の部分が窓から遠くなる。教室の配置など、学校計画としては難しくなる。(コンサルタント) ・病院からの見え方、入院棟からどう見えるのかが気になる。
和泉公園	・人工地盤案でも、公園部分については自然感が必要である。 ・新たな公園の中にも、桜を植えてほしい。砂場、子ども用遊具も必要だろう。 ・病院を利用する方にとっても公園の存在はとてもありがたい。 ・すべての人が使いやすいものになると良い。 ・じゃぶじゃぶ池は子どもから人気が高い施設である。工事期間中も継続的に利用できるようにできないか。 →現在のじゃぶじゃぶ池の位置は新たな施設の建設場所となるため、工事期間中の残置は難しい。(区事務局) ・ボール遊びについては、させてあげたい気持ちはあるが危ない面もある。現状では、病院へ通院している方やリハビリされている方等の利用も多いため、ボールが当たらないか不安がある。 ・公園管理者としてボール遊びによる利用はどのように考えるか。 →子どもの遊び場事業で時間を決めて利用させている。それ以上にボール遊びの利用ニーズが高い実態がある。(区公園管理者)
旧和泉町ポンプ所跡地	・移転建替えて進めていくとなると、工事期間中長く閉鎖される公園機能の代替が課題。これまでの検討会や地域からのご意見の中でも指摘されている。このため、ポンプ所跡地については、まずは工事期間中の代替公園、代替園庭として活用できればと考えている。意見があれば、後日でもお寄せいただきたい。(区教育委員会)
総括(日本大学理工学部教授)	・通常は検討委員会を重ねるたびに案を絞り込んでいくが、今回は施設配置に関して逆に複数の案が示された。しかし、そのおかげで多彩なアイデアが生まれ、有意義な会議になった。事務局は、いただいた意見を踏まえて次への準備を進めてほしい。